

テニス競技における競技レベルと性格特性の関連について

A study of relationship between game level and characteristic personality of tennis players.

1K07A020-7

井上 明里

指導教員 主査 山崎勝男先生

副査 堀野博幸先生

【目的】

同じ競技をしていても、優秀な成績を収められる者と、そうでない者がいる。なぜ同じ競技でも、優秀な成績を収められるものと、そうでないものとがいるのであろうか。そこには心理的な面において何か大きな違いがあるのであろうか。そこで本研究は、日本人テニス選手におけるトップ選手とそうでない選手との心理的競技能力（忍耐力・闘争心・自己実現意欲・勝留意欲・自己コントロール能力・リラックス能力・集中力・自信・決断力・予測力・判断力・協調性）の傾向を比較し、トップ選手にはどのような心理的傾向があるのか。また、トップ選手でない選手達が優秀な成績を収めるために必要な心理的要素を見出すことを目的とした。

【方法】

2010年7月下旬から12月上旬にかけてアンケート調査を行った。日本テニス協会に所属するトーナメントプロとアマチュアを合わせたJOPランキング1位から50位までの女子テニス選手48人（23.0±3.5歳）、及び男子テニス選手32人（24.1±4.9歳）を対象とした。なお、JOPランキングは2010年7月31日付けのランキングを利用するものとした。徳永幹雄らによって作成された心理的競技能力診断検査（DIPCA.3）を用いて、それぞれの尺度（忍耐力・闘争心・自己実現意欲・勝留意欲・自己コントロール能力・リラックス能力・集中力・自信・決断力・予測力・判断力・協調性）の得点を比較した。

【結果】

女子のランキングと性格特性の関連性を検討した結果、忍耐力（ $R = -0.268, p < .05$ ）・闘争心（ $R = -0.302, p < .05$ ）・自信（ $R = -0.375, p < .05$ ）・決断力（ $R = -0.409, p < .05$ ）・予測力（ $R = -0.298, p < .05$ ）・判断力（ $R = -0.39, p < .05$ ）の尺度において、ランキングと有意な負の相関関係が示された。つまり、ランキングが高ければ高いほど、忍耐力・闘争心・自信・決断力・予測力・判断力の各尺度の得点が高いことが示された。続いて、上位ランキング10名と下位ランキング10名の各尺度における得点を比較した。

その結果、上位10名は下位10名よりも忍耐力、闘争心、

自己実現意欲、決断力、判断力、自信、予測力の得点が有意に高い値を示した（ $p < .05$ ）。また、上位10名は下位10名に比べて協調性の値が低い傾向にあった（ $p < .10$ ）。自己コントロール・リラックス能力・集中力においてはランキング上位と下位で優位な差は見られなかった。

男子のランキングと性格特性の関連性を検討した結果、決断力（ $R = -0.315, p < .05$ ）の尺度において、ランキングと有意な負の相関関係が示された。つまりランキングが高ければ高い（順位が低い）ほど、決断力尺度の得点が高いことが示された。さらに、上位10名は下位10名よりも決断力と自信の得点が有意に高い値を示した。（ $p < .05$ ）。

【考察】

本研究結果より、ランキング上位10位以内のトップ選手とランキング下位10位の選手には、忍耐力・闘争心・自己実現意欲・決断力・判断力・勝留意欲・予測力・自信の側面において違いがあることが分かった。また、ランキングが上がれば上がるほど協調性尺度の得点が低くなることが示された。この結果はテニスという競技特性と関連していると考えられる。テニスはチームで行う競技に比べ、周囲の和を気にすることがない個人競技である。そのため、トップ選手になるには、チーム競技に比べ、自主性や主体性がより求められ、協調性よりも”自分”を確立させることがより重要になってくると考えられる。

自己コントロール能力・リラックス能力・集中力においては、テニス選手全員に共通してある特性で、テニス競技よりは競技スポーツ全体に必要な心理的要素であると考えられる。

本研究の目的は、トップ選手でない選手達が優秀な成績を収めるために必要な心理的要素の検討であった。本研究結果より、テニスにおいてランキング上位になる（優秀な成績を収める）ためには、自分の可能性を信じ、信念を貫く姿勢を持つこと、そして、素早く的確な判断を下し、相手の動向を常に予測する力、思い切った決断する能力を高めることが重要な要素であると考えられる。